



地本沖縄平和研修を開催！



ひめゆり学徒隊が活動していた糸数アブチラガマに入り、80年前の悲惨な歴史を想像しながら踏査を行いました。



辺野古テント村で活動する中村さんより辺野古の現状や新基地反対闘争を学びました。

4月21日～23日に、JR東労組水戸地本は戦後80年の節目の年に「平和・人権・民主主義」を守る取り組みとして地本沖縄平和研修を開催しました。

1日目は「ひめゆり平和祈念資料館」「平和の礎」「魂魄の塔」「糸数アブチラガマ」など沖縄県南部を中心に巡り、沖縄戦の歴史と現実を学びました。2日目は辺野古新基地建設反対闘争を行うテント村や嘉手納米軍基地、普天間飛行場、沖縄国際大学米軍機墜落事故現場など、米軍基地により沖縄県民が虐げられている現状を学びました。3日目は研修で同行し、沖縄戦や米軍基地踏査で様々なアドバイスをいただいたJR東労組OB会員の梁次さんより問題提起をいただき、全参加者で意見交換を行いました。

参加者から「ひめゆり学徒隊の現状や糸数アブチラガマの踏査で、当時のことを想像すると心苦しい」「基地を巡り、米軍機が落ちてくる恐怖を感じる」「4月9日米軍機が飛行し、入学式が一時中断した」など、戦争の悲惨さ、米軍基地の現実で新たな戦前である危機感を共有しました。沖縄戦は、一般住民が戦争に巻き込まれ、県民4人に1人が犠牲となる悲惨な現状を胸に秘め、私たちの家族や子供たちの未来のために、二度と戦争を起こしてはならないことを全参加者で確認しました。

世界では、ロシアとウクライナによる戦争や中東でも戦闘が続いていることで多くの市民や労働者が尊い命を奪われています。日本でも憲法を改悪する動きや防衛費の増額、辺野古新基地をはじめとする戦争の準備が着実に進められています。JR東労組水戸地本は、戦後80年を迎え、過去の歴史から学び、テロにも戦争にも反対し、命を大切に安心して暮らせる社会の実現と憲法9条を守り広める運動を目指していきます！

戦争に反対し、憲法9条を守り広めよう！